

新学習指導要領の実施に向けて

平成23年度徳島県高等学校教育課程研究集会「家庭部会」(H23年7月)資料より

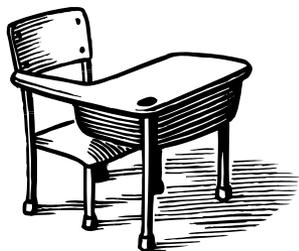
平成23年度徳島県高等学校教育研究大会家庭学会総会・研究協議会(H23年8月)資料より

①関係法令, 新学習指導要領の趣旨の徹底

②総則の確認

③家庭科の改訂の趣旨と内容等の理解

→「解説家庭編」参照



高等学校 学習指導要領

平成21年3月告示

改訂の趣旨と 内容等の理解

平成25年度から、
年次進行で実施

平成21年度から
福祉が一部先行実施

平成22年度から
総則，総合的な学習の時間，特別活動
等が先行実施

平成24年度から
数学，理科，理数が先行実施

改訂の基本的な考え方



平成20年1月 中央教育審議会答申

・改善の基本方針及び改善の具体的事項

家庭科，技術・家庭科については，その課題を踏まえ，実践的・体験的な学習活動を通して，家族と家庭の役割，生活に必要な衣，食，住，情報，産業等についての基礎的な理解と技能を養うとともに，それらを活用して課題を解決するために工夫し創造できる能力と実践的な態度の育成を一層重視する観点から，その内容の改善を図る。

その際，他教科等との連携を図り，社会において子どもたちが自立的に生きる基礎を培うことを特に重視する。

(1) 改善の基本方針

家庭科，技術・家庭科家庭分野については，自己と家庭，家庭と社会とのつながりを重視し，生涯の見通しをもって，よりよい生活を送るための能力と実践的な態度を育成する視点から，子どもたちの発達の段階を踏まえ，学校段階に応じた体系的な目標や内容に改善を図る。

平成20年1月「中央教育審議会答申」より

空間軸

時間軸

体系化

小

家族の一員としての自覚

中

これからの生活を展望する

高

生涯にわたる生活を設計する

(2) 改善の具体的事項(高等学校：共通教科「家庭」)

人間の発達と生涯を見通した生活の営みを総合的にとらえ、家族・家庭の意義と社会とのかかわりについて理解させるとともに、生活に必要な知識と技術を習得させ、家庭や地域の生活を創造する能力と主体的に実践する態度を育てることを重視し、次のような改善を図る。

社会の変化への対応

- ・家庭を築くことの重要性
- ・食育の推進
- ・少子高齢社会における子育て理解や高齢者の肯定的な理解や支援する行動力の育成
- ・日本の生活文化にかかわる内容の充実

・高校生の発達課題と生涯生活設計、キャリアプランニングなどの学習を通して、次世代を担うことや**生涯を見通す視点を明確にする**とともに、生涯賃金や働き方、年金などとの関係に関する指導などを加え、**生活を総合的にマネジメントする内容を充実する**。その際、生涯にわたる生活経済や深刻な消費者問題、衣食住生活と環境とのかかわりなどを**科学的に理解させる**とともに社会の一員として生活を創造する**意思決定能力を習得させる**ことを明確にした。

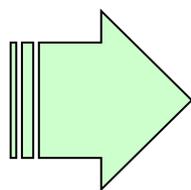
・家庭科の学習を実際の生活と結び付け、課題解決学習を行うホームプロジェクトや学校家庭クラブ活動については一層充実させる。

共通教科「家庭」の目標



人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的にとらえ、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会とのかかわりについて、理解させるとともに、生活に必要な知識と技術を習得させ、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する能力と実践的な態度を育てる

- 家庭基礎(2単位)
- 家庭総合(4単位)
- 生活技術(4単位)



- 家庭基礎(2単位)
- 家庭総合(4単位)
- 生活デザイン(4単位)



教科目標の改善



・「人間の生涯にわたる発達」

人間が生まれてから死ぬまでの間、身体的、精神的に変化し続け、各ライフステージの課題を達成しつつ発達するという生涯発達の考え方

人の一生という時間の経過を**時間軸**としてとらえるとともに、生活の営みに必要な金銭、生活時間、人間関係などの生活資源や、衣食住、保育、消費などの生活活動にかかわる事柄を**空間軸**としてとらえ、各ライフステージの課題と関連付けて理解させることが重要

・「主体的に」

生活に必要な知識と技術の習得を通して、共に支え合う社会の一員として主体的に行動する意思決定能力を身に付け、男女が協力して家庭や地域の生活を創造することができるようにすることを重視

共通教科「家庭」改訂の視点

- ◆ 社会から求められる課題(少子高齢社会, 食育の推進, 消費者教育等)を重視
→特に「家庭総合」で充実
- ◆ 高校生の発達課題と生涯生活設計やキャリアプランニングなどに関わる内容を充実
→全科目に設置
- ◆ 衣食住などの分野の科学的な理解を深める
- ◆ 社会の一員として生活を創造し行動する意志決定能力の育成
- ◆ 問題解決学習の重視 →ホームプロジェクト
学校家庭クラブ活動の一層の充実

各科目の改善事項



- (1) 「**家庭基礎**」 青年期の課題である自立と共生という視点から、家庭・家族、福祉、衣食住、消費にかかわる基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、環境に配慮したライフスタイルとのかかわりを深める学習を重視
- (2) 「**家庭総合**」 生涯を見通した生活を営むために必要な家族・家庭、子どもや高齢者とのかかわりと福祉、消費生活、衣食住などに関する知識と技術を総合的に習得させ、持続可能な社会を目指したライフスタイルの確立に関する学習を重視
- (3) 「**生活デザイン**」 実験・実習等の体験を特に重視し、衣食住の生活文化に関心をもたせるとともに、生涯を通して健康と環境に配慮した生活を主体的に営むことができるようにすることを重視

家庭(共通教科)の各科目の目標



科目	家庭総合 (4単位)	家庭基礎 (2単位)	生活デザイン (4単位)
目	人の一生と家族・家庭, 子どもや高齢者とのかかわりと福祉, 消費生活, 衣食住などに関する知識と技術を	人の一生と家族・家庭及び福祉, 衣食住, 消費生活などに関する <u>基礎的・基本的な</u> 知識と技術を	人の一生と家族・家庭及び福祉, 消費生活, 衣食住などに関する知識と技術を
標	総合的に 習得させ	習得させ	体験的に 習得させ
	家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに, 生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる		

家庭(共通教科)の各科目の内容



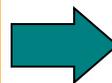
科目	家庭総合(4単位)	家庭基礎(2単位)	生活デザイン(4単位)
内容	(1)人の一生と家族・家庭 (2)子どもや高齢者との かかわりと福祉 (3)生活における経済 の計画と消費 (4)生活の科学と環境 (5)生涯の生活設計	(1)人の一生と家族・家庭及び福祉 (2)生活の自立及び 消費と環境	(2)消費や環境に配慮した ライフスタイルの確立 (3)食生活の設計と創造 (4)衣生活の設計と創造 (5)住生活の設計と創造
	(3)又は(6)ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動		
取扱い	すべての内容を取り扱う		(1), (3), (4), (5)の 一部の項目については、 適宜選択して履修できる

各科目の改善事項



◆食分野についてはすべての科目で重視

家庭基礎 (2単位)



自立と共生の能力を育成
ミニマムエッセンシャル

家庭総合 (4単位)

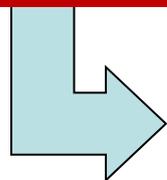


生涯を見通した生活
ライフステージごとの課題
科学的な理解

生活デザイン(4単位)



生活を設計し創造する
実験・実習を重視



4単位科目は,複数学年で学習できる

「家庭基礎」(2単位)

ミニマムエッセンシャルの内容
必要不可欠な指導内容を押さえる

(1) 人の一生と家族・家庭及び福祉

共生

青年期 家庭をつくる

壮年期 子どもをはぐくむ→高齢期を支える

高齢期 高齢期をいきる→共に支え合う

時間軸に沿って各ライフ
ステージの特徴と課題と
関連付け理解させることが
重要

(2) 生活の自立及び消費と環境

(社会人としての)自立

- ・衣食住生活を営む(食については重視)
- ・消費生活と生涯を見通した経済の計画
- ・持続可能な社会を目指したライフスタイルの工夫

生涯の生活設計

あえて内容を追加

(3) ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動

地域の実態に応じて、
人とかかわる体験的な
学習活動を工夫

生活課題を見付け、自ら解決する力

「家庭基礎」(2単位)の内容

(1) 人の一生と家族・家庭及び福祉

ア 青年期の自立と家族・家庭

(ア) 青年期の自立

(イ) 生活と意思決定

イ 子どもの発達と保育

(ア) 子どもの生活と家族・家庭

(イ) 子どもの育つ環境

ウ 高齢期の生活

(ア) 高齢期の特徴と生活

(イ) 高齢社会を生きる

エ 共生社会と福祉

(ア) 家族・家庭と社会的支援

(イ) 共生とコミュニティ

人とつながり共に生きる力

(2) 生活の自立及び消費と環境

ア 食事と健康

(ア) 栄養と食事

(イ) 食品と調理

イ 被服管理と着装

(ア) 被服の機能と着装

(イ) 被服の管理と計画

ウ 住居と住環境

(ア) 住居と家族の生活

(イ) 安全で衛生に配慮した住生活

エ 消費生活と生涯を見通した経済の計画

(ア) 消費者問題と消費者の権利

(イ) 生涯の経済計画とリスク管理

オ ライフスタイルと環境

(ア) 消費生活と環境とのかかわり

(イ) 環境負荷の少ない生活への取組

カ 生涯の生活設計

**生涯を見通して
生活を主体的に営む力**

(3) ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動

生活課題を見つけ、自ら解決する力

「家庭総合」(4単位)

「生涯を見通した生活を営む」ことや
「生活の科学的理解」を重視した内容

生涯を見通して生活を設計し、創造する力

(1) 人の一生と家族・家庭

様々な人とつながり、共に生きる力

(2) 子どもや高齢者とのかかわりと福祉

ア 子どもの発達と保育・福祉

イ 高齢者の生活と福祉

ウ 共生社会における家庭や地域

生涯を通して健康で文化的な生活を創り営む力

(3) 生活における経済の計画と消費

ア 生活における経済の計画

イ 消費行動と意思決定

ウ 消費者の権利と責任

(4) 生活の科学と環境(衣食住)

ア 食生活の科学と文化

イ 衣生活の科学と文化

ウ 住生活の科学と文化

エ 持続可能な社会を目指したライフスタイルの確立

5
生涯の生活設計

生活課題を見つけ、自ら解決する力

(6) ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動

「家庭総合」(4単位)の内容

(1) 人の一生と家族・家庭

ア 人の一生と青年期の自立

(ア) 人の一生と発達課題 (イ) 青年期の課題

(ウ) 生活の自立を目指す上での意思決定

イ 家族・家庭と社会

(ア) 家族の機能と家族関係 (イ) 家庭生活と社会

(2) 子どもや高齢者とのかかわりと福祉

ア 子どもの発達と保育・福祉

(ア) 子どもとかかわる (イ) 子どもの発達と生活

(ウ) 親の役割と子育て支援

(エ) 子どもの権利と福祉

イ 高齢者の生活と福祉

(ア) 高齢者とかかわる (イ) 高齢者の生活と課題

(ウ) 人間の尊厳とケア

(エ) 高齢社会の現状と社会福祉

ウ 共生社会における家庭や地域

(5) 生涯の生活設計

ア 生活資源とその活用

イ ライフスタイルと生活設計

(6) ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動

(3) 生活における経済の計画と消費

ア 生活における経済の計画

(ア) 家計と経済 (イ) 資金管理とリスク

(ウ) キャッシュレス社会とその課題

イ 消費行動と意思決定

(ア) 消費者の意思決定とその重要性

(イ) 生活情報の収集・選択と活用

ウ 消費者の権利と責任

(ア) 社会の変化と消費生活

(イ) 消費者問題の現状と課題

(ウ) 消費者の権利と自立支援

(4) 生活の科学と環境

ア 食生活の科学と文化

(ア) 人の一生と食事 (イ) 食生活の自立と調理

(ウ) 食生活の文化 (エ) 食生活と環境

イ 衣生活の科学と文化

(ア) 人の一生と被服 (イ) 衣生活の自立と管理

(ウ) 衣生活の文化と製作 (エ) 衣生活と環境

ウ 住生活の科学と文化

(ア) 人の一生と住居 (イ) 住生活の計画と選択

(ウ) 住生活の文化 (エ) 住生活と環境

エ 持続可能な社会を目指したライフスタイル

(ア) 持続可能な消費 (イ) 環境保全に向けたライフスタイルの確立

生活デザイン(4単位)生活を創造する衣食住を重視 選択項目を設置😊

(1)人の一生と家族・家庭及び福祉

- 😊 子どもとの触れ合い
- 😊 高齢者とのコミュニケーション

(2)消費者や環境に配慮した
ライフスタイルの確立

生涯を見通した生活を考え、様々な人とつながり共に生きる力

(3)食生活の設計と創造

- おいしさ 😊 食生活のデザインと実践
- 😊 衣生活のデザインと実践
- 😊 住生活のデザインと実践

(4)衣生活の設計と創造

装い

(5)住生活の設計と創造

快適さ

生活を楽しみ
味わい、創る力

(6)ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動

生活課題を見つけ、自ら解決する力

問題解決的な学習の重視



学習した知識と技術の一層の定着，総合化
実生活に活用する力の育成

ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動

学習指導要領に趣旨を明記

自己の家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の課題を設定し，解決方法を考え，計画を立てて実践することを通して生活を科学的に探究する方法や問題解決の能力を身に付けさせる

食育の推進



【高等学校学習指導要領 総則 第1教育課程編成の一般方針】

- 4 ……**学校における食育の推進**……に関する指導については、保健体育科はもとより、**家庭科**、特別活動などにおいても、**それぞれの特質に応じて適切に行う**よう努めることとする。

内容の取扱いに当たっての配慮事項(3)

食に関する指導については、家庭科の特質を生かして、食育の充実を図ること

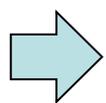
道徳教育の充実



教科目標

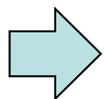
人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的にとらえ、**家族・家庭の意義**，家族・家庭と社会とのかかわりについて、理解させるとともに、**生活に必要な知識と技術を習得**させ、男女が協力して**主体的に**家庭や地域の**生活を創造する能力と実践的な態度を育てる**

- 生活に必要な知識と技術を習得すること



望ましい生活習慣を身に付けることや
勤労の尊さや意義を理解することにつながる

- 家族・家庭の意義を理解させることや主体的に生活を創造する能力などを育てること



家族への敬愛の念を深める
家庭や地域社会の一員としての自覚をもって自分の生き方を考え、生活をよりよくしようとするにつながる



体系化

中学校までの 学習を踏まえた指導

- ・ 内容項目の必修化
- ・ 平成24年度から全面实施

平成25年度入学生からは

「幼児との触れ合い」や
「生活課題と実践」は

中学校での既習内容

中学校 家庭分野の内容構成

平成10年 現行学習指導要領

A生活の自立と衣食住	B家族と家庭生活
(1)中学生の栄養と食事 (2)食品の選択と日常食の調理の基礎 (3)衣服の選択と手入れ (4)室内環境の整備と住まい方	(1)自分の成長と家族や家庭生活とのかかわり (2)幼児の発達と家族 (3)家庭と家族関係 (4)家庭生活と消費
(5)食生活の課題と調理の応用 (6)簡単な衣服の製作	(5)幼児の生活と幼児との触れ合い (6)家庭生活と地域とのかかわり

- ・小学校と同じ枠組み
A, B, C, Dで構成
- ・社会の変化に対応
内容, 項目の必修化

新学習指導要領 平成20年

A家族・家庭と子どもの成長

- (1)自分の成長と家族
- (2)家庭と家族関係
- (3)幼児の生活と家族

B食生活と自立

- (1)中学生の食生活と栄養
- (2)日常食の献立と食品の選び方
- (3)日常食の調理と地域の食文化

C衣生活・住生活と自立

- (1)衣服の選択と手入れ
- (2)住居の機能と住まい方
- (3)衣生活, 住生活などの生活の工夫

D身近な消費生活と環境

- (1)家庭生活と消費
- (2)家庭生活と環境

小学校 家庭科

A 家庭生活と家族

- (1) 自分の成長と家族
- (2) 家庭生活と仕事
- (3) 家族や近隣の人々とのかかわり

B 日常の食事と調理の基礎

- (1) 食事の役割
- (2) 栄養を考えた食事
- (3) 調理の基礎

C 快適な衣服と住まい

- (1) 衣服の着用と手入れ
- (2) 快適な住まい方
- (3) 生活に役立つ物の製作

D 身近な消費生活と環境

- (1) 物や金銭の使い方と買物
- (2) 環境に配慮した生活の工夫

中学校技術・家庭科(家庭分野)

A 家族・家庭と子どもの成長

- (1) 自分の成長と家族
- (2) 家庭と家族関係
- (3) 幼児の生活と家族

B 食生活と自立

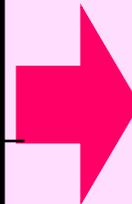
- (1) 中学生の食生活と栄養
- (2) 日常食の献立と食品の選び方
- (3) 日常食の調理と地域の食文化

C 衣生活・住生活と自立

- (1) 衣服の選択と手入れ
- (2) 住居の機能と住まい方
- (3) 衣生活, 住生活などの生活の工夫

D 身近な消費生活と環境

- (1) 家庭生活と消費
- (2) 家庭生活と環境



教科(分野)目標

小学校

衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、日常生活に必要な**基礎的・基本的な知識及び技能**を身に付けるとともに、**家庭生活を大切に**する**心情をはぐくみ**、家族の一員として生活を**よりよく**しようとする実践的な態度を育てる。

**家庭生活への関心を高め、
衣食住の営みの大切さに気付くこと**

中学校

衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、生活の自立に必要な**基礎的・基本的な知識及び技術**を習得するとともに、家庭の機能について理解を深め、**これからの生活を展望して**、課題をもって生活を**よりよく**しようとする能力と態度を育てる。

**将来にわたる自立した
生活の見通しをもつこと**

小学校

- ◆ 家庭生活の事実認識
- ◆ 生活の知恵の発見
- ◆ 生活技能獲得の喜び



中学校

- ◆ 家庭や家族の基本機能の理解
- ◆ 人間関係調整の基礎
- ◆ 生活実践力の基礎



高等学校

- ◆ 人間の発達と生活の営みの総合的理解
- ◆ 生活の科学的な認識
- ◆ 意志決定能力
- ◆ 問題解決能力
- ◆ 家庭生活経営能力
- ◆ 生活の創造的能力



中学校で「幼児と触れ合うなどの活動」が必修化

◎中学校における幼児触れ合い体験のねらい

- ・幼児への関心を深める
(幼児の発達と生活の特徴を知る, 幼児の遊びの意義を理解する)
- ・幼児へのかかわり方を工夫できるようにする
- ・自分なりの課題をもって, 幼児の発達の状況に応じた
かかわり方を工夫し実践できるようにする
※ 接し方・話し方・遊び方の工夫
- ・幼児と触れ合うことよさに気付く

直接体験の例

- ・幼稚園や保育所等の幼児との触れ合い
- ・子育て支援センターや育児サークルの親子との触れ合い
- ・教室に招いての触れ合い

困難な場合は, 視聴覚教材やロールプレイングでかかわり方の工夫

中学校における「生活の課題と実践」(1又は2事項を選択履修)

A(3)エ「家族又は幼児の生活についての課題と実践」

自分又は幼児の生活に関心をもつ

自分の家族又は幼児の生活をさらに豊かにするための工夫

(例)家族のコミュニケーションを深める工夫

幼児の遊び道具の製作, 間食の調理, 簡単な衣服の製作

B(3)ウ「食生活についての課題と実践」

自分の食生活に関心をもつ

自分や家族の食生活をさらに豊かにするための工夫

(例)日常食の調理の計画と実践

地域の食材を生かした献立・調理の工夫

C(3)イ「衣生活についての課題と実践」

自分や家族の衣生活又は住生活に関心をもつ

自分や家族の衣生活又は住生活をさらに豊かにするための工夫

(例)衣服のリフォーム, 洗濯や補修の計画と実践

事故を防ぐ手立てとなるものの製作

内容Bのまとめとして

第1学年で実施

(例)「食生活の課題にチャレンジしよう」全5時間

自分の食生活の課題を見つけよう : 1時間

マイ食事プランを考えよう : 2時間

家庭での実践

実践発表会をしよう : 2時間

内容B(3)イと関連を図って

第2学年で実施

(例)「地域の食材でオリジナル料理を作ろう」全6時間

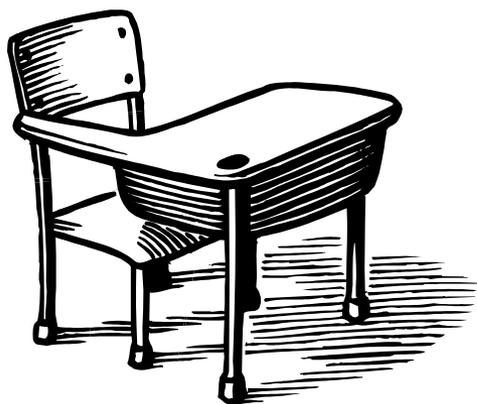
地域の食材について調べてみよう : 2時間

オリジナル料理の計画をたてよう : 2時間

家庭での実践

オリジナル料理を紹介しよう : 2時間

学習指導の工夫改善 (言語活動の充実)





言語の 役割

言語は、
論理・思考や
コミュニケーション
感性・情緒の
基盤です。



言語活動 の充実

思考力・判断力・表現力

などをはぐくむために

各教科等で

記録、要約、

説明、論述などの

言語活動を充実します。

言語活動の充実は、

各教科等を貫く重要な

改善の視点です。

言語活動の充実に関する基本的な考え方①

高等学校学習指導要領 総則

第1款 教育課程編成の一般方針 1

学校の教育活動を進めるに当たっては、各学校において、生徒に**生きる力をはぐくむ**ことを目指し、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する中で、**基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくむとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かす教育の充実**に努めなければならない。その際、生徒の発達の段階を考慮して、**生徒の言語活動を充実**するとともに、家庭との連携を図りながら、生徒の学習習慣が確立するよう配慮しなければならない。

第5款 教育課程の編成・実施に当たって配慮すべき事項の5の(1)

各教科・科目等の指導に当たっては、生徒の思考力、判断力、表現力等をはぐくむ観点から、基礎的・基本的な知識及び技能の活用を図る学習活動を重視するとともに、言語に対する関心や理解を深め、言語に関する能力の育成を図る上で必要な言語環境を整え、生徒の言語活動を充実すること。



★ **ポイント1**
各教科の指導において言語活動を充実すること

★ **ポイント2**
思考力・判断力・表現力等をはぐくむ観点から言語活動を充実すること

言語活動の充実に関する基本的な考え方②

高等学校学習指導要領

第1部 各学科に共通する教科「家庭」 第2章 各学科に共通する各教科
第9節 家庭 第3款 各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い
2 内容の取扱い(2)

子どもや高齢者など様々な人々と触れ合い、**他者とかかわる力を高める活動**、衣食住などの生活における様々な事象を**言葉や概念などを用いて考察する活動**、判断が必要な場面を設けて**理由や根拠を論述したり適切な解決方法を探求したりする活動**などを充実すること。

★ポイント3
高等学校家庭科における言語活動の充実

教科目標を実現するための手立てとして言語活動を充実

平成21年3月：高等学校学習指導要領p124

参考
資料

中学校〔技術・家庭科〕における「言語活動の充実」

①実習等の**結果を整理し考察する学習活動**の充実

体験から感じ取ったことや気付いたことをまとめたり、その結果を考察したり、共有したりする活動の工夫

②生活における課題を解決するために**言葉や図表、概念などを用いて考えたり、説明したりするなどの学習活動**の充実

言語活動の充実に関する基本的な考え方③

高等学校学習指導要領解説 家庭編

第1部 各学科に共通する教科「家庭」 第3章 各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い 4 総則関連事項(2)言語活動の充実

今回の改訂では、基礎的・基本的な知識・技能を習得する学習活動、これらの活用を図る学習活動及び総合的な学習の時間を中心とした探究活動といった学習の流れを重視し、**基礎的・基本的な知識・技能の習得とこれらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成をバランスよく図る**こととしている。

知識・技能を習得するのも、これらを活用し課題を解決するために思考し、判断し、表現するのもすべて言語によって行われるものであり、これらの学習活動の基盤となるのは、言語に関する能力である。さらに、言語は論理的思考だけでなく、コミュニケーションや感性・情緒の基盤でもあり、豊かな心をはぐくむ上でも、言語に関する能力を高めていくことが求められている。したがって、今回の改訂においては、言語に関する能力の育成を重視し、各教科等において言語活動を充実することとしている。

家庭科においても、例えば、「子どもや高齢者など様々な人々と触れ合い、他者とかかわる力を高める活動、衣食住などの生活における様々な事象を言葉や概念などを用いて考察する活動、判断が必要な場面を設けて理由や根拠を論述したり適切な解決方法を探求したりする活動などを充実すること」と示すなど、**教科の特質に応じた言語活動の充実**が図られているところである。



★ポイント4
教科の特質に応じた言語活動の充実

言語活動の充実に関する基本的な考え方④

高等学校学習指導要領解説 家庭編

第1部 各学科に共通する教科「家庭」第3章 各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い 3 内容の取扱いに当たっての配慮事項(2)

生徒の**思考力・判断力・表現力をはぐくむ観点から**、レポートの作成や論述といった**知識・技能を活用する場面を設定**するなど、**言語の能力を高める学習活動を重視**しており、このことは、**各教科等を貫く重要な改善の視点**である。高等学校家庭科においても、言語活動の充実に図る上では次のような学習活動が求められる。

1 **知的活動に関すること**として、合理的な判断力や創造的思考力、問題解決能力の育成を図るため、**生活における様々な事象や科学性を説明する活動**や判断が必要な場面を設けて**理由や根拠を論述したり**、正解が1つに絞れない課題を考える際、**最適な解決方法を探究したりする活動**を重視すること。

2 **他者とのコミュニケーションに関すること**として、会話を通して考えを明確にし、自己を表現し、他者を理解し、他者と意見を共有し、互いの考えを深めることを通して**協同的な関係を築くような活動**を重視すること。

3 **感性や情緒に関すること**として、**実践的・体験的な活動を一層重視**し、その過程で**様々な語彙の意味を実感を伴って理解させるような学習**を重視すること。

★ポイント5

言語の役割を踏まえ、言語活動の充実に図る上で重視する学習活動

これまでの取組を把握・検証し、効果的な指導に改善していくきっかけに

発表、討議、
ノート記述、
レポート作成などの言語活動を
活発かつ適性に行い、
豊かな言語能力を
育成

★参考になる資料

平成23年5月、文部科学省
「言語活動の充実に関する
指導事例集【中学校版】」

言語活動との関係を重視した指導方法の工夫

- 子どもや高齢者など様々な人と触れ合い，他者とかかわる力を高める活動

保育体験学習，高齢者との交流

- 衣食住などの生活における様々な事象を言葉や概念などを用いて考察する活動

話す，聞く，書く，読むことを通じた学習

- 判断が必要な場面を設けて理由や根拠を論述したり解決方法を探究したりする活動

ホームプロジェクト，学校家庭クラブ活動

様々な語彙の意味を実感を伴って理解させるため，実践的・体験的な活動を一層重視することが必要

思考力・判断力・表現力等を育成するためには？

(1) 体験から感じ取ったことを表現する

(例)・日常生活や体験的な学習活動の中で感じ取ったことを言葉や歌、絵、身体などを用いて表現する

(2) 事実を正確に理解し伝達する

(例)・身近な動植物の観察や地域の公共施設等の見学の結果を記述・報告する

(3) 概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする

(例)・衣食住や健康・安全に関する知識を活用して自分の生活を管理する

(4) 情報を分析・評価し、論述する

(例)・学習や生活上の課題について、事柄を比較する、分類する、関連付けるなど考えるための技法を活用し、課題を整理する

- ・文章や資料を読んだ上で、自分の知識や経験に照らし合わせて、自分なりの考えをまとめてA4・1枚(1000字程度)といった所与の条件の中で表現する
- ・自然事象や社会的事象に関する様々な情報や意見をグラフや図表などから読み取ったり、これらを用いて分かりやすく表現したりする
- ・自国や他国の歴史・文化・社会などについて調べ、分析したことを論述する

(5) 課題について、構想を立て実践し、評価・改善する

(例)・理科の調査研究において、仮説を立てて、観察・実験を行い、その結果を整理し、考察し、まとめ、表現したり改善したりする

- ・芸術表現やものづくり等において、構想を練り、創作活動を行い、その結果を評価し、工夫・改善する

(6) 互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる

(例)・予想や仮説の検証方法を考察する場面で、予想や仮説と検証方法を討論しながら考えを深め合う

- ・将来の予測に関する問題などにおいて、問答やディベートの形式を用いて議論を深め、より高次の解決策に至る経験をさせる

専門教科「家庭」の主な改善

- 科目構成：19科目 → 20科目で構成
- 原則履修科目：「生活産業基礎」、「課題研究」
- 主な改善事項
 - ・ 消費者ニーズの的確な把握や必要なサービス提供等を行う企画力やマネジメント能力の育成、生活文化の伝承や消費、環境への対応、食の安全等、生活や生活産業を取り巻く状況の変化に対応する観点から改善
 - ・ 「被服製作」を「ファッション造形基礎」と「ファッション造形」に再構成
 - ・ 「生活産業基礎」において、消費者のニーズを把握し、生活の変化に対応した商品・サービスの企画・開発から販売・提供する内容を扱うこと示したり、「消費生活」において、消費生活と環境とのかかわりや持続可能なライフスタイルの形成に関する内容を充実
 - ・ 関係する科目において、住生活と文化や日本と世界の服飾にかかわる内容、「食品」において、食品の表示にかかわる法規や制度など取り扱うことを明示するなど食生活の充実向上を図る内容を充実するなどの改善



専門教科「家庭」の科目構成(19科目→20科目)

新学習指導要領	現行学習指導要領	備 考
生活産業基礎	生活産業基礎	原則履修科目
課題研究	課題研究	原則履修科目
生活産業情報	家庭情報処理	名称変更
消費生活	消費生活	
子どもの発達と保育	発達と保育	名称変更
子ども文化	児童文化	名称変更
生活と福祉	家庭看護・福祉	名称変更
リビングデザイン	リビングデザイン	
服飾文化	服飾文化	
ファッション造形基礎	被服製作	分類整理
ファッション造形		
ファッションデザイン	ファッションデザイン	
服飾手芸	服飾手芸	
フードデザイン	フードデザイン	
食文化	食文化	
調理	調理	
栄養	栄養	
食品	食品	
食品衛生	食品衛生	
公衆衛生	公衆衛生	

専門教科「家庭」改訂の視点

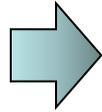
- ① 少子高齢社会の進展やライフスタイルの多様化，食育の推進など社会の要請への対応 「生活と福祉」，「子どもの発達と保育」，「子ども文化」，「フードデザイン」
- ② 衣食住，ヒューマンサービスにかかわる生活産業への消費者ニーズの的確な把握や必要なサービスの提供等を行うための企画力，マネジメント能力の育成 「生活産業基礎」，「消費生活」
- ③ 生活文化を伝承し創造する人材の育成 「リビングデザイン」，「服飾文化」，「ファッション造形基礎」，「ファッション造形」



「生活産業」のスペシャリストを育成する視点を明確に

科目構成(名称変更等があった科目)

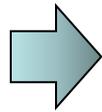
家庭情報処理



生活産業情報

生活産業の各分野で、情報を適切に処理し、活用することを重視

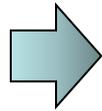
発達と保育



子どもの発達と保育

次世代育成推進, 子育て支援の必要性に対応, 発達の主体と保育の対象を明確化

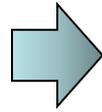
児童文化



子ども文化

現代の生活に基づく遊びや表現活動を幅広く扱う, 子どもとかかわる人材の育成

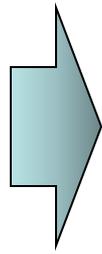
家庭看護・福祉



生活と福祉

高齢者福祉の制度変化に対応し, 介護予防と自立生活支援に関する内容を充実

被服製作



ファッション造形基礎

デザインや着用目的に適した被服の製作

ファッション造形

高度な縫製技術の習得, ファッション産業やアパレル産業にかかわる人材の育成

専門教科「家庭」の目標

家庭の生活にかかわる産業に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、生活産業の社会的な意義や役割を理解させるとともに、生活産業を取り巻く諸課題を主体的、合理的に、かつ倫理観をもって解決し、生活の質の向上と社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てる

◆ 家庭の生活にかかわる産業

衣食住、保育、家庭看護や介護など
ヒューマンサービスに関連する産業



専門教科「家庭」の目標

◆ 生活産業を取り巻く諸課題

- ・ものの豊かさから心の豊かさへ
- ・画一・均質から多様性・選択の自由の拡大へ
向かっている消費者のニーズを的確に捉える
- ・安全で安心であること

倫理観をもって

職業人としての規範意識

◆ 生活の質の向上



普通科での職業科目の履修

【高等学校学習指導要領 第1章総則 第5款の4の(1)】

普通科等においては、地域や学校の実態、生徒の特性、進路等を考慮し、必要に応じて、適切な職業に関する各教科・科目の履修の機会の確保について配慮するものとする

普通科において履修することが考えられる各科目

「消費生活」、「子どもの発達と保育」、「子ども文化」、
「生活と福祉」、「リビングデザイン」、
「ファッション造形基礎」、「フードデザイン」



高校生の現状と課題



中等教育資料 平成21年4月号, 平成23年2月号

生活体験の減少(知識と体験が伴っていない)

- ・現在, 生活に困っているわけではない
- ・自分で作れなくても購入すればよい

・知識や技術を身に付けたいという意識が低い

○ 生活にかかわる技術そのものが年々低下している。

包丁で皮を剥けない, 針に糸を通せない, 玉結びや玉留めができないなど
高校生段階であれば当然できると思われることができない

○ 安全衛生に関わる基本的な事項が身に付いていない。

コンロの近くに紙やポリ袋を置く, 調理の前に野菜を洗うことを知らないなど
危険を予知して行動することや衛生面の管理ができない生徒が多くなっている

○ 出来上がりの予想を立てたり手順を考えたりして, 合理的に作業をすることが苦手である。

片付けや洗い物を同時に進めながら調理をすることができない
食材の分量を10倍, 10分の1単位で間違っても気が付かない
中表で縫えばできあがりに表が出てくるという感覚がつかめない

○ 文章を読み取る力が欠如している。

料理のレシピを読み, できあがりまでをイメージする力が弱くなっている
衣服の部分名称や縫い方の名称などはていねいに説明しないと理解できない

今後の指導のポイント



① 人間の発達を学ぶ視点にたつ

- ・生涯を見通す
- ・自らのライフプランを展望する力
- ・社会的な自立を支える視点

生涯の生活設計

② 家庭科でねらう力を明確にする

- ◆ 生活理論と実践力を結び付ける
- ◆ 問題解決能力，意志決定能力を付ける
- ◆ 言語活動を重視した指導の工夫

生活にかかわる基礎的・基本的な知識と技術を確実な習得

家庭科技術検定

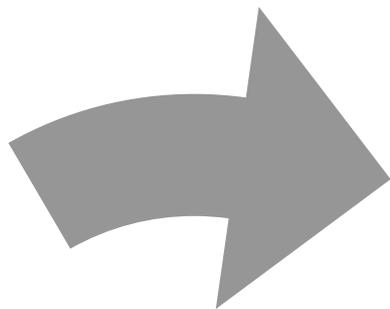
教科目標を実現するための
手立てとして言語活動を充実

保育体験学習

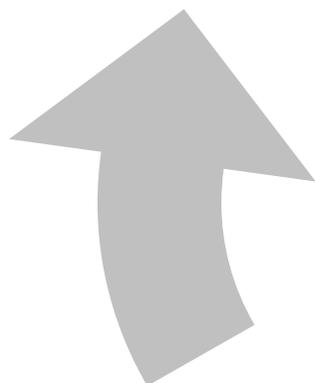
「学習する楽しみ」と「生涯にわたる生活に活用できること」
を意識した授業づくりを！



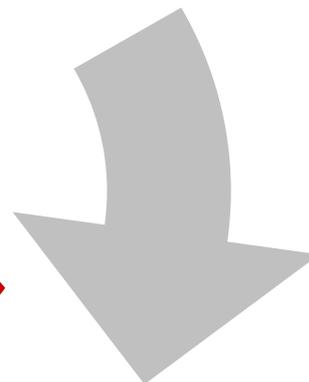
教育目標、教育方針、
学習評価等の見直しと
教育課程への反映



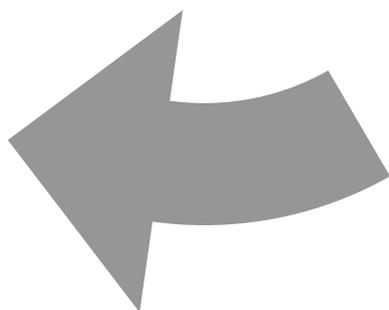
教育内容の改善事項
について
指導計画への具現化



PDCA サイクル



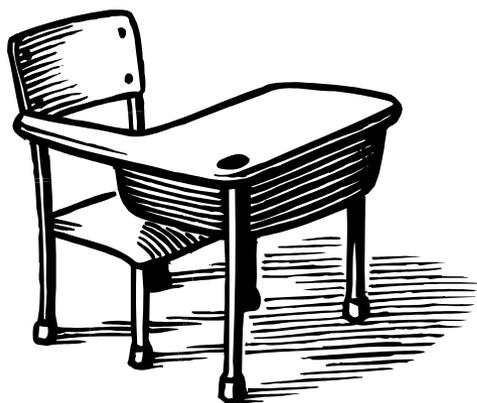
教育成果の適切な評価
とそれを踏まえた
教育活動の改善



新学習指導要領に
対応した
指導案や教材の整備

指導と評価の一体化

(観点別学習状況の評価の改善)



学習評価 の改善

1. きめの細かな指導の充実や児童生徒一人一人の学習の定着を図ることのできる「**目標に準拠した評価**」による「**観点別学習状況の評価**」や「**評定**」を着実に実施。
(学習評価の在り方の大枠は維持し、**深化を図る。**)
2. 学習評価においても学習指導要領等の**改訂の趣旨を反映**。
3. 学校等の創意工夫を生かす**現場主義を重視した学習評価の促進**。

観点別学習状況の評価

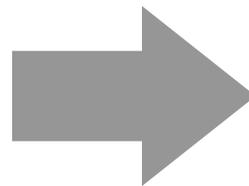
現 行

関心・意欲・態度

思考・判断

技能・表現

知識・理解



新

関心・意欲・態度

思考・判断・**表現**

技能

知識・理解

新学習指導要領で示された 学力の3つの要素と評価の観点とを整理

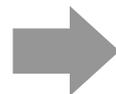
基礎的な知識・技能



知識・理解

技能

思考力・判断力・表現力



思考・判断・表現

学習意欲・態度



関心・意欲・態度

関心・意欲・態度

各教科が対象としている学習内容に関心を持ち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を児童生徒が身に付けているかどうかを評価



授業や面談における発言や行動等

ワークシートやレポートの作成，発表

※ 授業中の挙手や発言の回数といった表面的な状況のみに着目することにならないよう留意

<工夫の例>

教科の特性や学習指導の内容等も踏まえつつ，ある程度長い区切りの中で適切な頻度で「おおむね満足できる」状況等にあるかどうかを評価

思考・判断・表現

それぞれの教科の知識・技能を活用して課題を解決すること等のために必要な思考力・判断力・表現力等を児童生徒が身に付けているかどうかを評価



- **論述，発表や討論，観察・実験とレポートの作成**といった新しい学習指導要領において充実が求められている学習活動を**積極的に取り入れ**，学習指導の目標に照らして実現状況を評価
- **思考・判断の結果だけではなく，その過程を含めて評価**

知識・理解

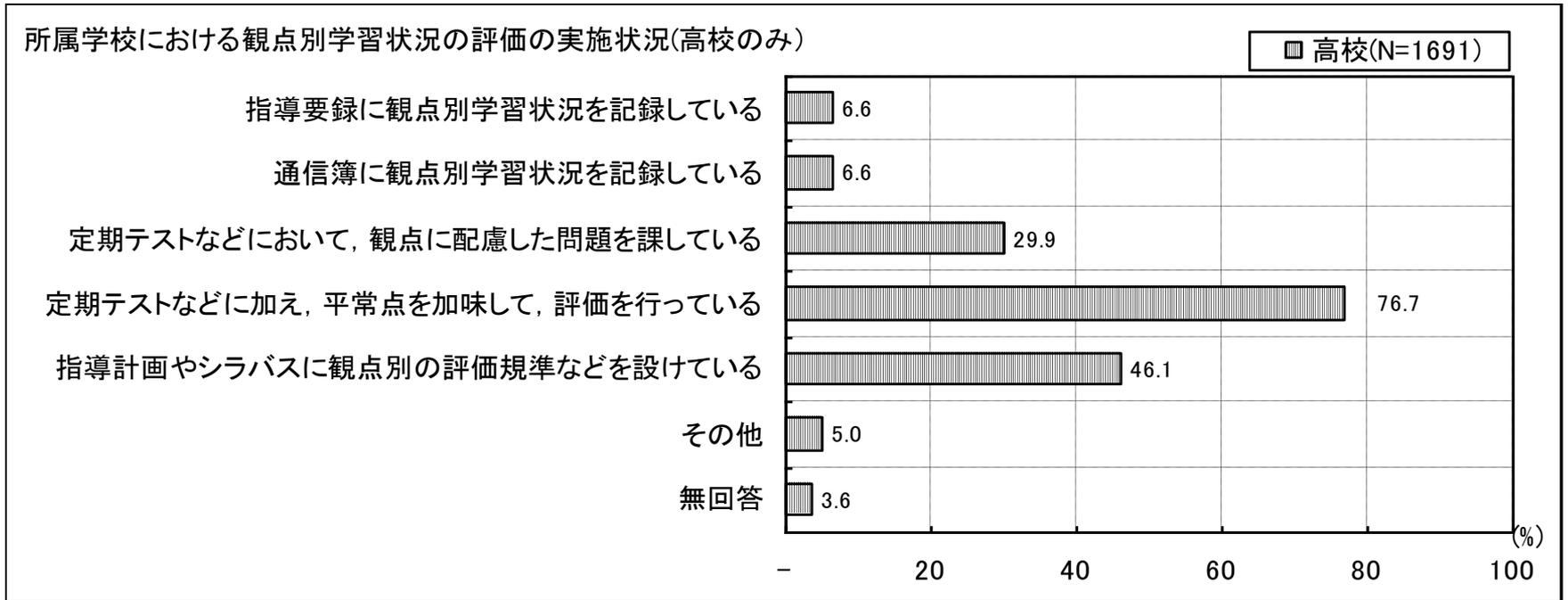
各教科において習得すべき知識や重要な概念等を
児童生徒が身に付けているかどうかを評価

技能

各教科において習得すべき技能を
児童生徒が身に付けているかどうかを評価

※ 基本的には、現在の「技能・表現」で評価している内容は引き続き「技能」で評価

高等学校における学習評価の在り方①



出典:平成21年度文部科学省委託調査 学習指導と学習評価に対する意識調査



小・中学校ほど

観点別評価が定着していない

高等学校における学習評価の在り方②

- 高等学校においても、学習指導と学習評価を一体的に行うことにより、生徒一人一人に学習内容の確実な定着を図り、授業の改善に寄与することが重要



- 高等学校においても、観点別学習状況の評価を推進していくことが必要

- 指導要録の評定についても、観点別学習状況の評価を引き続き十分踏まえることが必要

(ただし、各学校の生徒の特性、進路等が多様であることへの配慮も必要)

共通教科「家庭」の観点の趣旨 新旧比較

新学習指導要領

関心・意欲・態度

家庭や地域の生活について関心をもち、その充実向上を目指して**主体的に取り組もうとする**とともに、実践的な態度を身に付けている

思考・判断・**表現**

家庭や地域の生活について**課題を見いだし**、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し工夫し創造する能力を身に付けている

技能

家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な技術を身に付けている

知識・理解

家庭生活の意義や役割を理解し、家庭や地域の生活を充実向上するために、必要な基礎的・基本的な知識を身に付けている

現行学習指導要領

関心・意欲・態度

家庭や地域の生活について関心をもち、その充実向上を目指して**意欲的に取り組む**とともに、実践的な態度を身に付けている

思考・判断

家庭や地域の生活について**見直し、課題を見付け**、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し工夫し創造する能力を身に付けている

技能・**表現**

家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な技術を身に付けている

知識・理解

家庭生活の意義や役割を理解し、家庭や地域の生活を充実向上するために、必要な基礎的・基本的な知識を身に付けている

専門教科「家庭」の観点の趣旨 新旧比較

新学習指導要領	現行学習指導要領
<p>関心・意欲・態度 生活産業を取り巻く諸課題について関心を持ち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている</p>	<p>関心・意欲・態度 生活産業や家庭の各分野について関心を持ち、その改善・向上を目指して意欲的に取り組むとともに、創造的、実践的な態度を身に付けている</p>
<p>思考・判断・表現 生活産業を取り巻く諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、生活産業に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている</p>	<p>思考・判断 生活産業や家庭の各分野に関する諸課題の解決を目指して自ら思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身に付けている</p>
<p>技能 生活産業に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、生活産業に関する諸活動を合理的に計画し、その技術を適切に活用している</p>	<p>技能・表現 生活産業や家庭の各分野に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、実際の仕事を合理的に計画し、その成果を適切に表現する</p>
<p>知識・理解 生活産業に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、生活産業の社会的な意義や役割を理解している</p>	<p>知識・理解 生活産業や家庭の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、生活産業の社会的な意義や役割を理解している</p>

効率的・効果的な学習評価をするためには

Plan

指導計画等の作成

Do

指導計画を踏まえた
教育の実施

Check

児童生徒の学習状況,
指導計画等の評価

Action

授業や指導計画等
の改善





学習評価 を通じて

学習指導の在り方を
見直すことや
個に応じた指導の充実を
図ること、
学校における教育活動を
組織として改善すること
が重要。